

# 沖縄市こどもの発達支援に関する指針

## 【概要版】



平成30年10月

沖 縄 市

# 沖縄市こどもの発達支援に関する指針（概要）

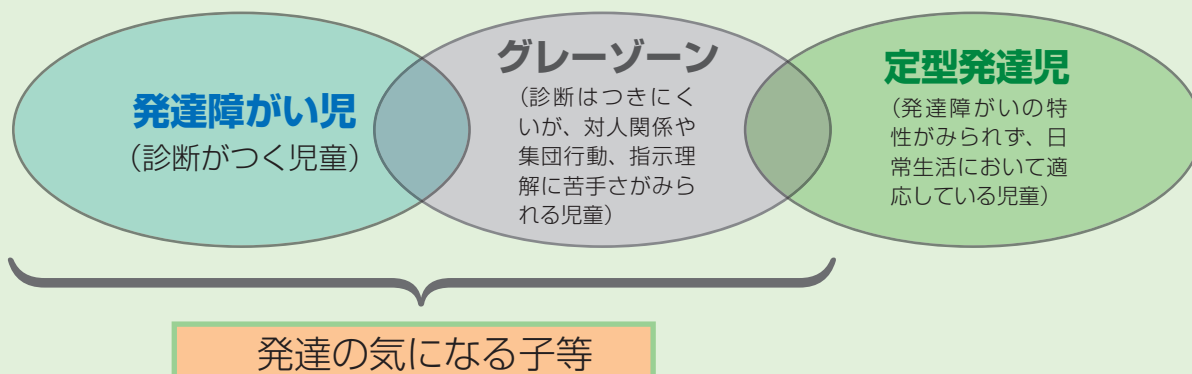
## 背景

- ①発達支援保育や特別支援教育の支援児等の増加により、支援体制づくりや環境整備など今後の支援方針の検討が必要
- ②関係機関との情報共有や連携強化など、ライフステージに応じた切れ目のない支援が求められる
- ③関係機関等が支援のあり方を共有できるツールの必要性

## 目的

発達支援施策の充実と発達の気になる子等の各ライフステージに応じた切れ目のない支援を行う

## 定義



## 基本理念

### <基本理念>

こどもたちの個性をのばし、自立に向けた力を育む切れ目のない発達支援

### <基本方針>

- ①こどもの心身の健やかな成長と発達を支援する【本人支援】
- ②家族に寄り添い、安心して子育てができる相談体制等の構築【家族支援】
- ③地域で健やかに成長できる環境を整備する【地域支援】
- ④関係機関との連携によるライフステージに応じた切れ目のない支援【移行支援】
- ⑤発達支援を担う関係機関の支援体制づくり【機関支援】

**家族支援**  
寄り添い、支える

**本人支援**  
気づき、育てる

**地域支援**  
地域で支え合う

**移行支援**  
連携し、つながる

**機関支援**  
支援体制をつくる

## 乳幼児期の発達支援（0～6歳）

### <基本的な視点>

- ①発達が気になる段階からの早期発見と早期支援
- ②こどもや家族に寄り添った丁寧な支援
- ③関係機関との連携による、つながる支援



### <主な支援施策>

- ①乳幼児健診事業
- ②乳幼児発達相談事業
- ③発達に関する継続相談窓口の設置
- ④療育支援事業（きらきら、つくし園、保育巡回）
- ⑤発達支援保育事業
- ⑥幼稚園特別支援教育事業

## 学齢期の発達支援（7～15歳）

### <基本的な視点>

- ①児童生徒の自立や社会参加に向けた支援
- ②進学や就労に向けた支援
- ③特別支援教育の支援体制の整備充実
- ④保育・福祉・医療など関係機関と連携した支援



### <主な支援施策>

- ①就学支援委員会
- ②特別支援学級
- ③通級指導教室
- ④特別支援教育補助者等の配置
- ⑤児童健全育成事業
- ⑥放課後等デイサービス事業

## 青年期の発達支援（16～18歳）

### <基本的な視点>

- ①相談支援と情報提供の充実
- ②地域の中で自立した生活をめざす
- ③就労に向けた支援



### <主な支援施策>

- ①障害者相談支援事業
- ②障がい者基幹相談支援センター運営事業
- ③障がい者就労支援業務
- ④就労移行支援事業
- ⑤就労継続支援事業

## 発達支援に関する今後の取り組み

### (1) (仮称) 沖縄市こども発達支援センターの設置

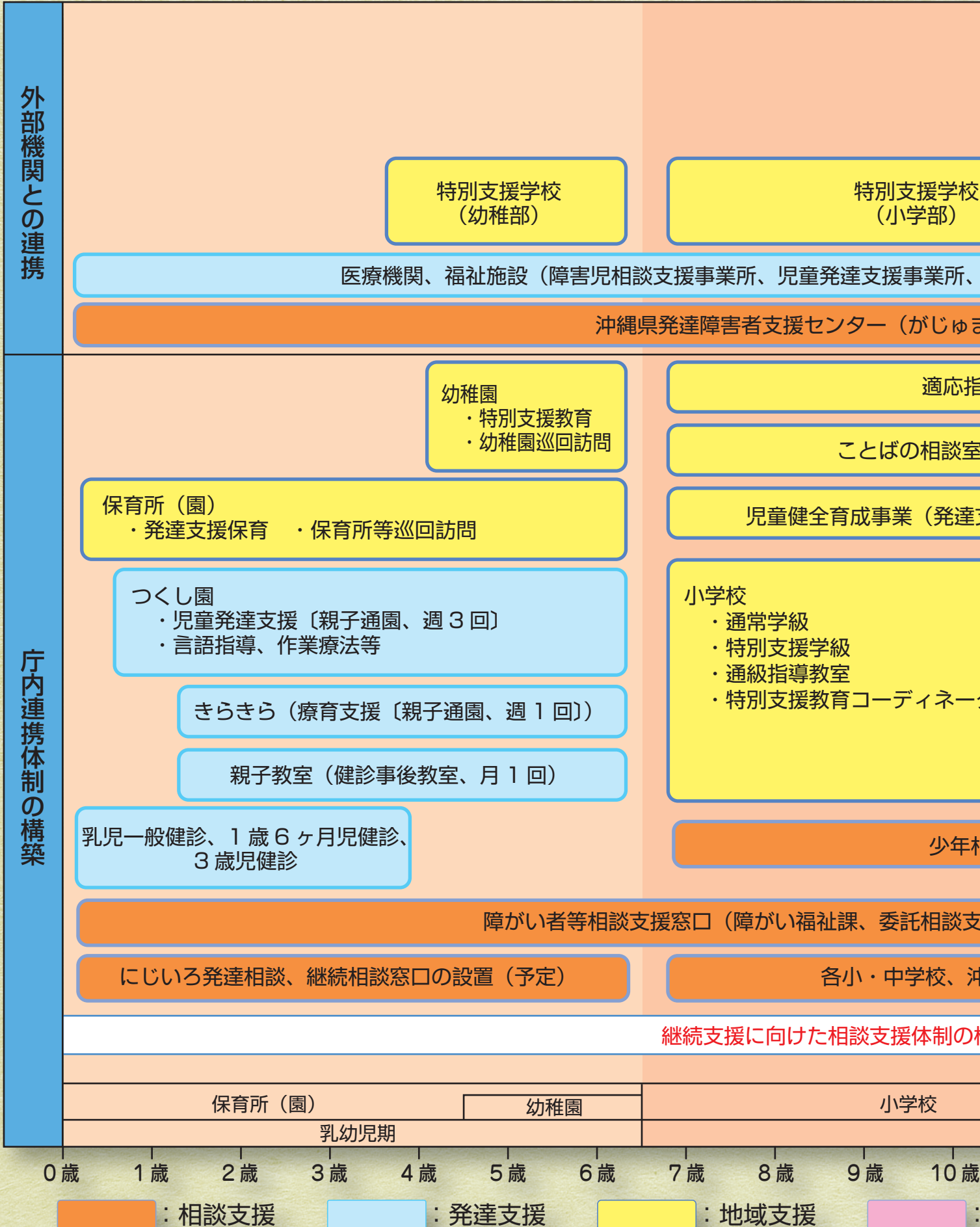
発達の気になる子等の早期発見や家族を含めた早期支援、ライフステージに応じた切れ目のない支援の拠点となる（仮称）沖縄市こども発達支援センターの設置に取り組む。

#### <主な支援機能>

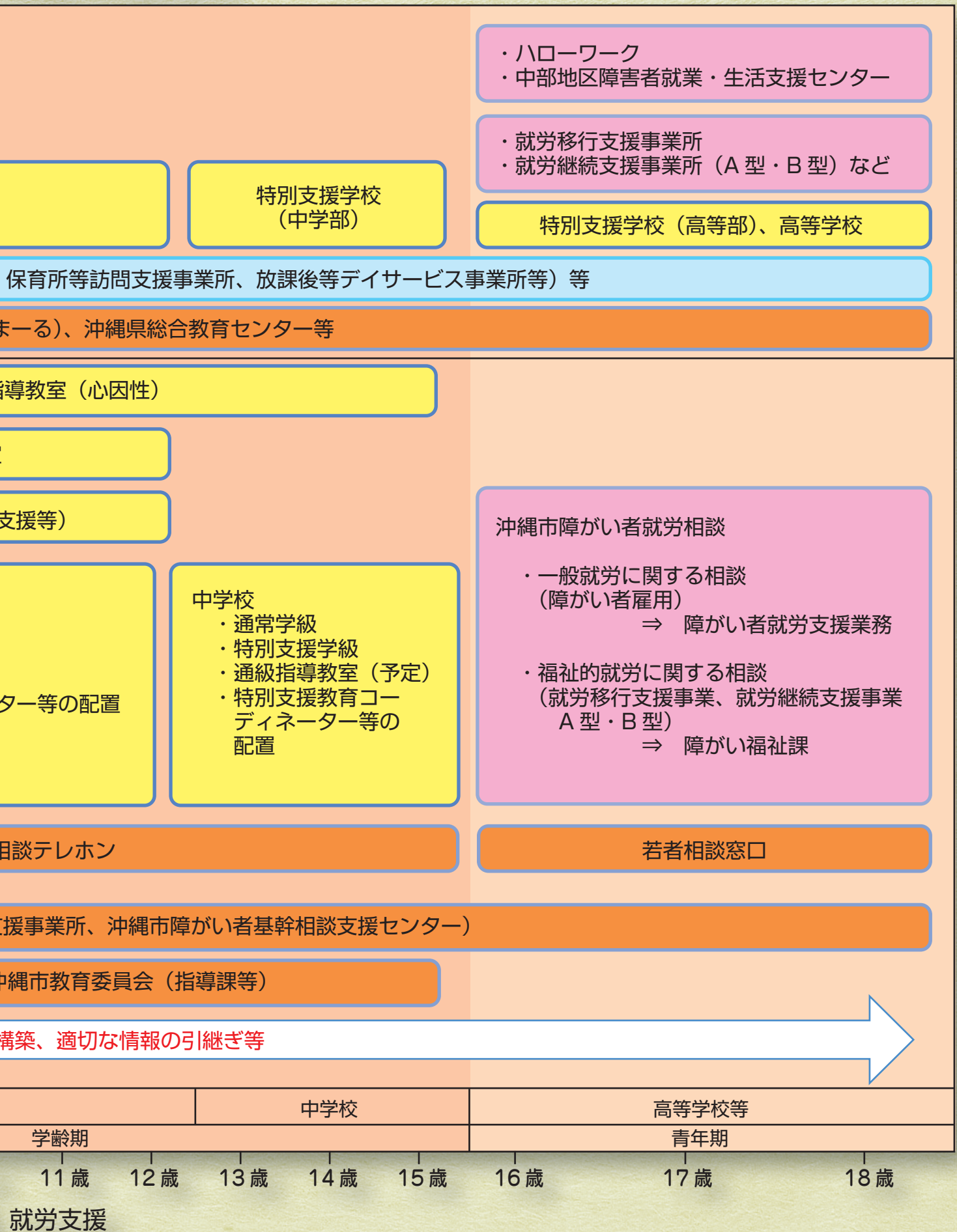
- ①こどもへの発達支援
- ②家族等への相談支援
- ③関係機関等への地域支援
- ④ライフステージに応じた切れ目のない移行支援

- (2) 発達支援に関する相談体制の充実
- (3) (仮称) 沖縄市発達支援連絡会の設置
- (4) 情報の共有化と引継ぎ体制の充実
- (5) 発達支援を担う人材の確保と育成
- (6) 発達障がいに関する市民への啓発

# 沖縄市の主な発達支援体制



# 発達支援施策



## 重点施策

### ①発達に関する継続相談窓口の設置

発達の気になる子とその保護者を対象とした発達相談窓口を新設し、こどもの発達に関する心配ごとについて専門の相談員が相談・支援を行います。

#### <現状・課題>

- ・つくし園・きらきら等の親子通園に通えない家庭がある
- ・1～2回程度の相談窓口はあるが、継続して相談できる場がない



#### <方向性>

- ・発達の気になる子の支援拠点を福祉文化プラザ内に設置
- ・継続して相談できる窓口の設置

### ②療育支援事業「きらきら」

ことば・行動・コミュニケーション・社会性・協調運動などの面において苦手さを抱えるお子さんに対し、丁寧な保育を行いながら、保護者と一緒にこどもの発達状況の確認を行います。また、保護者の困りごとや悩み事についてもスタッフと一緒に考えながら、子育てに関するサポートを行います。今後、プログラムの見直し等も行いながら支援の充実に努めます。

#### <現状・課題>

- ・1歳から4歳までのクラスは定着しているものの、5歳児クラスについては運営方法の検討が必要
- ・0歳児からの早期発見・早期支援に向けた取り組みの検討



#### <方向性>

- ・5歳児クラス：就学を見据えて親子通園から単独通園等へ転換
- ・0歳児クラス：早期発見・早期支援に向けたプログラムの実施

### ③つくし園の機能拡充

発達が気になる児童とその保護者が一緒に通園し、日常生活における基本的な生活習慣の習得や集団生活への適応に向けた支援など、発達に必要な療育を行います。また、必要に応じて専門家による発達相談や言語指導、作業療法も行います。

今後、療育を必要とする子の支援の充実を図るため、施設の改修を行い、保育室や託児室等の整備拡充に取り組むとともに、これまでの児童発達支援に加え、新たに相談支援や訪問支援などの地域支援機能の充実を図り、地域の中核的な療育支援施設としての再整備をめざします。

#### <現状・課題>

- ・利用者が増加傾向にあり、受入人数が限界に達している
- ・施設が老朽化し、手狭なため利用者ニーズに対応できていない



#### <方向性>

- ・プール室を改修し、保育室や託児室等の整備・拡充を図る
- ・国等の支援を活用し相談支援や訪問支援の機能拡充を図る

## 重点施策

### ④保育所等巡回訪問

心理士や保育士が発達支援保育を実施している公立保育所・認可保育園を巡回し相談・支援を行います。また、発達支援保育を実施していない保育園や認可外保育施設、幼稚園については園からの希望を受けて巡回し相談・支援を行います。今後、市内全園を対象とした研修会の充実を図り、各保育所（園）や幼稚園の支援力の向上に努めます。

#### <現状・課題>

- ・発達支援児が増加する一方で、保育巡回を担う心理士等の確保が困難
- ・保育所等への巡回頻度も少なくなっている



#### <方向性>

- ・巡回支援は時期や目的に応じた訪問とする
- ・研修の充実を図り、各保育所（園）・幼稚園での支援力の向上を図る

### ⑤特別支援学級

関係部署と連携し、特別支援学級における計画的な教室の整備や学びやすい環境づくりをすすめます。また、発達相談窓口の充実や学校内の支援体制づくりを推進するなど、特別支援教育の充実に努めます。

#### <現状・課題>

- ・特別支援学級の児童・生徒数および学級数が右肩上がりに増加
- ・教室数が不足するとともに、校内の支援体制の充実が求められる



#### <方向性>

- ・特別支援学級における計画的な教室の整備や学びやすい環境づくり
- ・発達相談窓口の充実や学校内の支援体制づくりの推進

### ⑥通級指導教室

通級指導教室の設置基準の要件緩和に向けた方策を検討するなど、通級指導教室の拡充をめざします。

#### <現状・課題>

- ・市内の通級指導教室は小学校が2校、中学校が0校と少ない状況
- ・通級指導教室の設置基準のハードルが高い（1校に通級判定者10名以上）



#### <方向性>

- ・通級指導教室の設置基準の要件緩和を検討するなど（1校に通級判定者5名以上）、通級指導教室の拡充をめざす

### ⑦特別支援教育補助者等の配置

小学校・中学校において、通常学級に在籍している障がいをもつ児童生徒や医療的ケアの必要な児童生徒に対し、特別支援教育補助者や特別支援教育介助者、看護師を配置し、生活上及び学習上必要な支援を行います。また、特別支援教育補助者等の処遇改善や人材確保に努めます。

#### <現状・課題>

- ・特別支援児の増加に伴い、特別支援教育補助者等の人員不足が課題
- ・同補助者等は夏休み期間に採用が途切れるため、人材確保が困難



#### <方向性>

- ・特別支援教育補助者や介助者、看護師の処遇改善や増員に努める

